

# 平成27年度 第1回東員町まち・ひと・しごと創生懇談会 主な意見

日時：平成27年8月10日（月）午前10時～

場所：西庁舎2階 201～202会議室

## 1. 人口ビジョンについて

- 東員町では、30歳代の単独世帯数が伸びており、未婚率も伸びているが、これらは全て国勢調査から作られているので、外国から働きに来ている人も含まれる。外国人をどのように考えるかによって、データの扱いが変わってくる。

## 2. 結婚・出産・子育てについて

### (1) ワークライフバランス

- ワークライフバランス、男性の子育て参画が重要。
- 保育制度を充実することで、東員町は子育てしていても働きやすい、ということが必要。
- 夏休みなどにも子どもを預けられる仕組みがあると、親が働くことができ、世帯の収入が増えるので、子どもをもう一人産もうということになる。

### (2) 教育

- 結婚し子どもをつくると大変なことが多いので、結婚しないで仕事をバリバリやるほうが楽、結婚しないほうが良いという状況ができています。結婚したらこんなよいことがあるという教育をしていかないといけない。

### (3) 近居の促進

- 近居の促進が効果的。（おじいさんやおばあさんの近くに住むことで、育児を頼める）

### (4) 小児科医院

- 町に1軒しかないので、不便。子どもを産んでから初めてわかること。不便なので子どもは一人でよい、となってしまう。

## 3. 転入促進について

### (1) 北勢線沿線での住宅の確保

- 子どもが大きくなったときに、ネオポリスに家建てたいが、価格が高いので桑名などに行ってしまう。東員駅の周辺を住宅地にできないか。
- 転勤してきた人をどうやって定着させるかが課題。三重県在住者は大学進学と就職で県外へでて、一方で、県外から就職で入ってくるという現象が起こっている。
- 転勤してきた人に向けて、北勢線の沿線に住宅を建てられないか。
- 調整区域の指定を特別にはずすことも必要。

### (2) 空き家の活用

- 空き家を町で借り上げて、若い人に安く貸すことができれば、東員町に人が入ってくるのではないか。
- 町が空き家の情報提供や管理支援を行う仕組みがあれば、安心して家を貸す人が増えるのではないか。

### **(3) 町のイメージアップ**

- 東員町と桑名のイメージの違いがある。転勤で大阪から来た人は、東員町に住まない。イメージ的な活性化も含めてやっていくことが必要。

## **4. 雇用について**

### **(1) 農業の活性化**

- 農業の分野で東員町にお金が落ちる仕組みを考えたほうが良い。産業が活性化して税収があがってきたら、良い方向になる。
- 農を、新たな産業や雇用の機会としてどうやって生かしていくのかということ。
- 農業の可能性、新たな価値づけが求められる。また、健康寿命を延ばすことが大切になる。
- 直売所や加工所があって付加価値をつくるものがあれば、生産者と地域との交流、雇用が生まれ、農業分野の規模も拡大する。

### **(2) 新しい産業の仕組みの構築**

- 高齢化が進むと、電球の交換などは、お助けサービスでお金のやり取りをできる仕組みが必要になる。既存産業のほか、新たな産業も必要になる。

## **5. その他**

- 人口減少によって、どういう生活課題が起こってくるのか、いままで真剣に考えていない。空き家、買い物難民とか。

以上